

## 市内の若者と市長との「“本気”で語ろう会」会議録

日時	平成31年3月8日（金）18:35～20:10まで
場所	鹿屋市役所地下レストラン「バラチカ」
参加者	市内の若者14名（本市出身者で地元で働いている方）
	市長、政策推進課長、課長補佐ほか1名

### 意見交換

#### テーマ：鹿屋市に暮らしてみても

##### 【参加者の意見】

##### ○ 地元で働こうと思ったきっかけ

- ・実家の仕事の関係で現在の職場と関わりがあったこともあるが、地元で就職したかった。高校卒業後12～13年経つが充実している。
- ・大した理由はなかったが、地元で働きたいと思った。  
自分に技術を付けていく会社が良かった。
- ・卒業後は鹿屋に帰って来たかった。様々な分野の仕事に携わりたいと思い現在の会社を選んだ。
- ・前職を含め、人の役に立ちたいと思い、今の職場を選んだ。
- ・半ば親の命令で帰ってきたが、食べ物も美味しいし住みやすい。  
東京、大阪はゴミゴミしていて好きではなかった。
- ・特に理由があって鹿屋に住んでいる訳ではない。知っている土地が良かった。  
社会人として最初に住む場所は、鹿屋が良いと思った。
- ・親元に帰りたかった。
- ・鹿屋が住みやすい、実家があると安心する。
- ・就職することは考えていたが、県外は考えなかった。親の近くが良かった。
- ・鹿屋以外での就職に興味なかった。

##### ○ 鹿屋に住んで思うこと。

- ・イベントが少しずつ増えてきている。
- ・他自治体に比べると子育てはしやすい。
- ・子どもの通学路が狭い（寿地区）。
- ・集客は厳しいかもしれないが、複合施設が欲しい。  
ただ、地元の個店が施設に入ればよいが、そうでなければ地元の商店に弊害が出るかもしれない。
- ・電車が欲しい。
- ・市外に行くことが多いので、高速道路のインターチェンジが増えれば良いと思う。
- ・子供の頃は気付かなかったが、車を運転するようになり、道が狭いと感じる。  
高齢者などが増加する中、対応すべきではないかと思う。
- ・町内会に入らないとゴミが捨てられない。子供がいれば入っても良いが、年配の方ばかりである。
- ・街灯が少ない。暗い所も多い。

- ・市は子育て支援策を色々としているが、実際にそれが市民に伝わっていないことがある。
- ・保育士の研修など鹿児島市内で開催されることが多いので鹿屋市内でも受講できるようにしてほしい。
- ・特別支援など、家庭で問題を抱えている子どももいるため、そのような保護者が勉強する機会を作ってほしい。
- ・医療費の現物支給をしてほしい。
- ・リナシティかのやは、一部の人達が利用しているイメージがある。市民全員が利用しているかという疑問である。
- ・税金が高い。
- ・下水道工事が進まない。

### 【市長】

- ・子ども達に地域に残ってもらうため、雇用先を含め環境整備をしなければならぬと思っている。
- ・意見を伺っていると地元に住む理由は、家族(親)の存在が大きい感じがする。市では、家族の大切さをもっと政策に反映させる必要があると思っている。3世代、4世代の家庭を目指すことで、この地域に若者が残ってくれるのではないかと思っている。そのような施策をどこまでできるかが重要だと思っている。
- ・電車は難しいかもしれないが、交通手段は本市の課題の1つである。今後、高齢社会が進展する中で、交通弱者対策で道路運送法等の制度に広がりが出てくるのが推測される。これからは制度を変えていかないと対応が厳しい状況になる。
- ・今後の公共事業は、それを整備することにより地域がどのように変わるか費用対効果を示さないと実施が難しくなっている。
- ・交通安全の取組として、高齢者の免許証の返納等の取組を進めている。一方で、免許を返納することで行動範囲が狭まり、家庭に籠りがちになるため、判断力が鈍らないようにしていく取組も重要だと考えている。
- ・道路等のインフラが老朽化しており、これをいかに長寿命化していくかが市の課題となっている。
- ・町内会については、現在、地区によっては加入率が5割を切っている。若い人達が入りたくなるような活動も大事なかもしれない。
- ・街灯については、今後3年で全てLED化していく予定である。新規の街灯の設置を希望する場合は、街灯を管理している各町内会に相談してほしい。
- ・医療費の現物支給については、現在、一部の条件の方達には行っているが、モラルハザード的に全員を対象としていない部分もある。
- ・税金が高いというよりも、社会保険料がかかっていることが多い。
- ・本市の財政状況については、広報かのやに家計簿に例えて説明があるので是非、目を通してほしい。

- ・鹿屋市には、周りの自治体からも買い物や病院に訪れている。  
本市は、このような関係人口を支えていく必要がある。ここが弱くなると地域(大隅)全体の産業が弱くなると思っている。
- ・光通信や道路等の基盤整備を行うことで、市民の皆さんは便利になる一方で、企業等のストロー化が起きないかということを懸念している。  
高速道路での日帰り出張やインターネットでの遠隔操作ができるようになれば、鹿屋市内に事業所がある意味が無くなってくる。
- ・全国的な話ではあるが、集合住宅の空き家が多い。集合住宅の空き家は、活用が難しい。市では空き家の解体費用の補助や危険空き家の行政代執行も行っているが、空き家が多くなることで防犯、安全性の問題も生じる。
- ・本日の皆さんの意見全てを具体的な政策として作り上げることは難しいかもしれないが、皆さんの想いやご意見をできるだけ尊重し、政策に反映していく努力をしたい。